



『家族、仲間、そして祖国』

——ベトナム社会主義国・元国家副主席グエン・ティ・ビン女史回顧録

(グエン・ティ・ビン著 コールサク社発行・2160円)

ベトナム戦争たけなわの1968年、「ベトナムにおける戦争終結・平和回復に関するパリ四者会談」にベトナム南部解放民族戦線代表のグエン・ティ・ビンさんは、アオザイ姿で颯爽と登場し世界中を驚かせた。

回顧録で読むグエン・ティ・ビンさんの生涯はドラマティックなことの連続だが、なか



『家族、仲間、そして祖国』

——ベトナム社会主義共和国・元国家副主席
グエン・ティ・ビン女史回顧録
日本ベトナム国交樹立四十周年記念・結業被害者支援企画

グエン・ティ・ビン著

監修・翻訳 富田健次 清水政明

共訳 三木理恵 グエンティ・アイ・ティエン
本木圭代 越克剛
鎌ヶ江勲 中村光
藤原美代子 伊藤光介
山本理恵 スオン・ヴァン・ビン
近藤美佳 財津信
藤原純子 スオン・ティ・ホア
小田なら

コールサク社

Nguyễn Thị Bình
Hồi Ký Gia Đình, Bạn Bè Và Đất Nước

でも1968年パリ登場から、69年にはベトナム南部共和国臨時革命政府樹立と同時に外務大臣兼団長となり、1973年の協定締結までパリで活躍した5年の日々は興味深い。それは私たちも同じ時代にベトナム反戦の運動と深くかわる日々を送っていたからだろう。その頃私たちは、ベトナムの戦場からの脱走兵たちと一緒だった。米軍のスパイが入り

68年11月には脱走兵メイヤーズが捕まり、ベ平連は脱走兵を国外に逃がすルートを失った。道を閉ざされてしまったところへ次々と現れる脱走兵たち。彼らを国外へ脱出させる道を求めて高橋武智さんがヨーロッパへ渡った。彼はパリのベトナム南部共和国臨時革命政府代表部にグエン・ティ・ビンさんを訪ねている。「あなた方の闘いの一つ一つは、私たちの闘いの一つ一つと同じく、小川のようなものです。いつかある日、それらの闘いのすべて

てが一つに結ばれ、私たちの人民解放につながる大河となることでしよう」と語った言葉が今も頭に深く残っていると彼は著書『私たちは脱走アメリカ兵を越境させた……』に書いている。

日本で様々な反戦運動が行なわれていることをクチのトンネルの中でNHKの短波放送で聴いて励まされた、元解放戦線の闘士から聞いたのは、2002年元ベ平連代表小田実さん団長のベトナム

訪問団に加わった時だった。クチのトンネル跡を訪ねるバスの中で「戦車の前に座り込んだニュースには驚きました」と語ったのは通訳のグエン・コン・タンさん、「僕は戦車の前に座り込んだんですよ」と訪問団のメンバー山口幸夫さん、思いがけない出会いだった。それらの闘いのすべてがまさに一つに結ばれて大河となったのだ。

この旅で私たちは当時国家副主席だったグエン・ティ・ビンさんにお会いした。懇談のあと彼女が主催する昼食会に招いてくださった。2004年には小田実さんたちの招きでグエン・ティ・ビンさんは大阪を訪問なさった。「世界平和に向けてベトナムからの提言」との講演を聞いた。そのシンポジウムで私はグエン・ティ・ビンさんと直接お話をする機会を得て、パリ会談で協定に彼女が署名する有名な写真にTo my friend Yoshieとサインをいただいた。あのアオザイの闘士と直接親しくお会いする日があるなどと1968年には考えもしなかった。

グエン・ティ・ビンさんの生涯は闘争の連続だった。20代は抗フランス戦争の活動家で、4年近い獄中生活も経験した。ディエン・ビエン・フーの闘いに勝利した後、一度は要請されたベトナム民主共和国停戦連合代表団への参加を「女性のメンバーは要らない」と断られるという目にもあった。続く抗アメリカ戦争では73年のパリでの協定締結後75年4月30日の南部解放まで、各方面に協定の履行を

読者のおたより

☆TPPを阻止しよう

北海道旭川市 矢三隆司

TPPはアメリカの大企業のために日本のすべてを差し出す悪魔の契約。断固阻止すべし。

☆「民」が動かない

群馬県前橋市 町田杏子

戦後68年にしてついに不戦の継承はたれるのか？ 日本史上最長と言われるけれど、100年もたたないうちに戦争とは。風雲急を告げるが民動かず。人間で戦争が好きなんですね。（編集部・昨年12月のおたより）

☆シルバーですがやめられない

東京都目黒区 宮本なおみ

シルバーです。目も悪く読み物、ニュースが多く困っていますが、「市民の意見」の頑張り、吉川さんとの付き合い、いずれをとつてもやめられません。

☆個人で考え何かしよう

高知県幡多郡 稲毛延年

憲法を変えないで解釈して勝手にするのは困る。戦争を知らない世代——しかも保守の代議士、大臣には困っています。個人でそれぞれ何かする方法はないでしょうか。貴会の

文書100%支持しています。1933（昭和8）年10月1日生。

☆天皇への思い入れの違い

愛知県知多市 坂野一三

142号に141号の天野恵一さんの「編集後記」に心昂ぶられた方の感想が載りました。これは天皇、皇室への思い入れの差ではないでしょうか。思い入れの無い私には、この方の記した森達也、五日市憲法草案が引っかけられました。この5月に古希を迎えます。

☆天皇のよき働きは必要ない

東京都江戸川区 池内友子

私は市民の意見30の会に出会って、市民の一人としての意見を聞いたことをとても嬉しく思っています。142号の読者のおたよりにも記されていたことについて。私達市民は「天皇のよきはたらき」を必要としないで、必要なことは市民の自分達でやっていきましようと言いかけます。

☆「招集」と「召集」の大きな違い

岐阜県岐阜市 金井多賀子

大変な時期です。特に「市民の意見」を待っておりまして。今日着きました。ありがたうございます。早速読んでおります。が、私にとって、重要な間違い（誤字）と思える箇所がありましたので……。『23ページ』の天皇の「国事行為」第七条の二に、国会を「召集すること」とありますが、ここでは「招集」

求めた活動の数々と、分断され破壊しつくされた祖国の再生への道は困難なことばかりだった。解放後は世界各地を巡り、国内では教育省大臣などの要職についた。1992年になり共産党総書記が彼女を訪ねて国家副主席就任を要請した。「私が若くてまだいろいろな貢献ができた時に、同志のみなさんは私のことを正しく評価してくれませんでした。もう引退すべき歳になったのです」と一度は断った。結局その役目を引き受けベトナムの国際化において貢献したとはいえ、いかに彼女の人生が平坦でなかったかを思い、胸がつまる。

パリへ出発する時に置いていった12歳の少年と8歳の少女だった子どもたち、孫たちにも恵まれ、グエン・ティ・ビンさんは今年88歳、今も枯葉剤被害者支援の活動に携わっている。彼女の苦難の人生はそのままベトナム人民の苦難の年月でもあることを、この回想録は語っている。来年はベトナム戦争終結、南部ベトナム解放から40年を迎える。

最後になったが、この本の共訳者に小田ならの名前がある。ならさんは小田実さんの愛娘だ。小田さんが亡くなった時はまだ大学生だった。小田さんが最後に書いた長編小説「終らない旅」は次の世代へのバトンタッチがテーマだった。確実にひと世代廻ったのだと感慨深い。

坂元良江

（さかもと・よしえ／テレビプロデューサー）